

R4-01

安全マップの活用と不審者対応避難訓練の実施

- 管内 空知管内
- 分類 通学路の点検 防犯教室・防犯訓練 安全マップ
スクールガード・リーダー等の活用 その他
- 教育課程 教科（保健体育科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 安全マップを活用した地域の危険箇所についての共通理解と、保護者と連携を図った通学路における街頭指導の実施
- 2 不審者対応避難訓練による不審者侵入時の避難行動の確認

取組の実際

ねらい

- 校区内の危険箇所について安全マップにより把握し、生徒自身の安全意識を高める。
- 不審者が校内に侵入した際の不審者から身を守る方法について訓練により具体的に学び、生徒が主体的に判断し、行動することができる。

内容

1 安全マップを活用した危険箇所の確認と街頭指導

年度当初に、安全マップを活用し、観光客や車の出入りが多い箇所を中心に確認するとともに、保護者と教職員が連携して、毎月、生徒の登校時間に危険箇所に立ち、注意喚起を図ることを通して、生徒の安全意識を高めた。



【安全マップ】

2 不審者対応の避難訓練

生徒へ事前に避難訓練を予告せず、昼休みに不審者が職員室玄関から校内に入ってきたことを想定した避難訓練を実施した。生徒は事前学習の中で、不審者が入ってきた際、生徒が自分のいる場所から最短距離の施設できる教室に避難するよう指導を受けており、当日は、生徒が自分の判断で、自分のいる場所から最短距離にある教室に避難することができた。校外で活動していた生徒についても、自ら安全な場所を見つけ、避難することができた。



【さすまたを使用した訓練①】

さらに、教職員の役割分担により、警察への通報や生徒の避難誘導及びさすまたを使用した不審者への対応訓練を行った。

避難訓練終了後は、各学級で、状況によって大声で助けを求めて逃げることなど、状況に基づいて判断することについて、生徒が主体的に考える時間を設定し、不審者対応について理解を深めた。



【さすまたを使用した訓練②】

成果と課題

- 安全マップを活用して、危険箇所を確認するとともに、定期的に教職員と保護者が街頭指導を実施することで、生徒の安全意識の向上が図られた。
- 事前予告なしで不審者対応避難訓練を実施したことにより、生徒が緊張感をもって行動でき、生徒の危機管理意識を高めることにつながった。
- さすまたや椅子などを活用した、生徒及び教職員の安全を守るための実技訓練に十分な時間をかけることができなかったことから、実技訓練を想定した実施計画を立てるなどの工夫により、取組のさらなる充実を図る必要がある。